

第2回助成研究表彰式・受賞記念講演会

本財団では昨年より助成研究表彰制度を設けました。これは、優れた成果をあげた助成研究者に対して与えられるもので、本年度も18名の応募の中から、技術委員の厳正な審査のもとに各賞の候補者が選定され、7月1日開催の理事会において3名の方の受賞が決定いたしました。

9月12日に鉄鋼会館において表彰式ならびに受賞記念講演会が行われました。当日は西村理事長の挨拶、幸田技術委員長長の講評の後、理事長よりステンレス製の表彰状と賞金が受賞者に授与され、引き続き受賞者による受賞記念講演が行われました。

☆各賞の受賞者

①理事長賞

賞の性格	環境技術及び学術の進歩を通して鉄鋼業や社会に対し、卓越した功績が認められる助成研究成果をあげた助成研究者 に贈られる。		
受賞者	早川 和一	所属	金沢大学医薬保健研究域薬学系・教授
助成研究期間	1年：2008年11月～2009年10月		
研究テーマ	環日本海域における有機エアロゾルの長距離輸送と変質反応に関する研究		
研究成果	4箇国10余都市の大気中濃度の測定により、PAH・NPAHが大陸より長距離輸送されることを明らかにした。また、これらの多環芳香族炭化水素が紫外線による変質反応を受けて、内分泌かく乱作用や活性酸素産生作用を持つことを発見した。		

②技術委員長賞

賞の性格	環境技術及び学術の進歩に、卓越した功績が認められる助成研究成果をあげた若手助成研究者 に贈られる。		
受賞者	則永 行庸	所属	九州大学先端物質化学研究所・准教授
助成研究期間	2年間：2006年11月～2008年10月		
研究テーマ	コークス炉ガスの接触部分酸化・水蒸気改質反応機構の解明と迅速水素製造システムの構築		
研究成果	種々の芳香族化合物の熱分解、部分酸化、水蒸気改質反応を精度よく予測できる反応速度モデルの構築に成功した。これを用いて、高効率COG改質のための反応場を提案し、実験により水素の収率が50%向上することを確認した。		

③鉄鋼技術賞

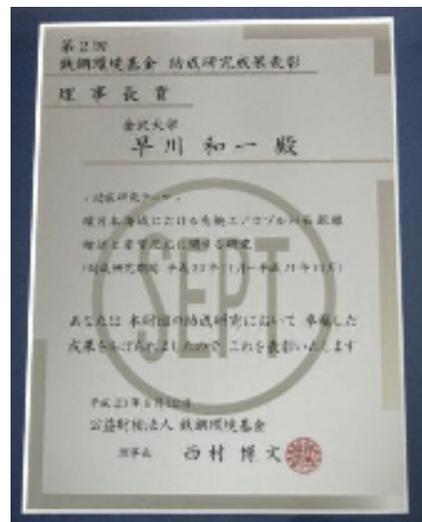
賞の性格	鉄鋼環境技術の進歩を通して鉄鋼業に対し、卓越した功績が認められる助成研究成果をあげた助成研究者 に贈られる。		
受賞者	神谷 秀博	所属	東京農工大学大学院工学研究院・教授
助成研究期間	3年間：2005年11月～2008年10月		
研究テーマ	固定発生源からの凝縮性ナノ粒子の生成機構と排出防止法		
研究成果	固定発生源から排出されるPM2.5を煙道中で計測するバーチャルインパクター法を開発し、その標準化・ISO化を推進した。また、重金属蒸気を含むモデル排ガスをを用いた実験により大気放散状態を模擬できる希釈条件を明らかにするとともに、高効率捕集法に関する基礎的知見を得た。		

【 表彰式ならびに受賞記念講演会の状況 】



授賞式記念撮影

左から 西村理事長、早川教授、則永准教授、神谷教授、幸田技術委員長



授与されたステンレス製の表彰状



理事長賞 早川 和一 金沢大学 教授



技術委員長賞 則永 行庸 九州大学 准教授



鉄鋼技術賞 神谷 秀博 東京農工大学 教授



記念講演 聴講風景